

キッズゴルフ

プロジェクトニュース

第3号

2003年11月25日発行

発行 = 日本ジュニアゴルファー育成協議会

・ゴルフ競技関連4団体の共同チャリティ活動が内定

企業・団体・個人のキッズゴルフ・プロジェクトに対するチャリティ活動の契機となることを期待して、キッズゴルフ・プロジェクトを構成するゴルフ競技関連4団体（JGA、PGA、LPGA、JGTO）が共同でチャリティ資金を出し合い、小学校や教育委員会に対するチャリティ活動を実施する事が内定した。4団体は今後2年間、1団体あたり50万円を出し合い、毎年200万円を原資にスナッグゴルフ・コーチングセットを購入して、希望する小学校や教育委員会に贈呈するチャリティ活動を実施する事が内定した。各団体の理事会等の機関決定を経て12月中に正式発表する。さらに、企業・団体・個人のチャリティ活動を求める広報活動を実施する。

・チャリティ募金箱の作成

キッズゴルフ・プロジェクトは、一般のゴルフファンなどの支援を期待して、チャリティ募金箱を作成する事を決定した。ゴルフ場の受付カウンターや、ゴルフ練習場、一般の商店などにおいてもらい、スナッグゴルフ・コーチングセットを購入する資金を得ようと言うもの。コーチングセットの購入代金である23万円が達成されたら募金箱を置いてくれたゴルフ場などの希望の小学校や教育委員会でセットを贈呈する。その際、小学校や教育委員会との折衝、導入のための講習会、導入後の指導などはキッズゴルフ・プロジェクトが担当する。当面200個～300個の募金箱を作成する予定で、近い将来はもっと多くの設置場所を確保する。既にアコーディアゴルフ傘下の33ゴルフ場の設置が決定した。

・2004ジャパングolfフェアへの参加を内定

(社)日本ゴルフ用品協会が主催する2004ジャパングolfフェアに日本ジュニアゴルファー育成協議会（JGC）として単独出展する事が内定した。2002年・2003年のゴルフフェアに対するLPGAなどの出展により、ゴルフ業界におけるスナ

ッグゴルフへの認知が急速に高まった事を鑑みて、ゴルフフェアがJGCの活動にたいする理解と支援を得るための絶好のアピールチャンスと捉えて、出展を内定したものの。現在、JGCを構成する10団体に向けて出展資金の支援を受けるための活動を開始すると同時に、アクションチーム内に小委員会を設置して出展内容の検討に入っている。

・穴戸ヒルズ近隣小学校の講習会が順調に推移

7月に開催された日本ゴルフツアー選手権に伴うチャリティ活動としてJGTOとスポンサーの森ビルが協力して実施した、穴戸ヒルズゴルフクラブの近隣自治体（友部町、笠間市、岩間町）の小学校へのスナッグゴルフ贈呈に伴う講習会は下記にスケジュールで順調に推移している。

10月22日(水)	北川根小学校(友部町)参加児童 = 58名 友部小学校(友部町)参加児童 = 118名
11月5日(水)	佐城小学校(笠間市)参加児童 = 46名 笠間小学校(笠間市)参加児童 = 103名
11月10日(月)	大原小学校(友部町)参加児童 = 34名
11月12日(水)	笠間南小学校(笠間市)参加児童 = 23名 稲田小学校(笠間市)参加児童 = 72名
11月18日(火)	穴戸小学校(友部町)参加児童 = 52名 友部第2小学校(友部町)参加児童 = 115名
11月19日(水)	笠間東小学校(笠間市)参加児童 = 91名
12月2日(火)	岩間第2小学校(岩間町)参加予定児童 = 31名 岩間第3小学校(岩間町)参加予定児童 = 65名
12月10日(水)	岩間第1小学校(岩間町)参加予定児童 = 61名
12月17日(水)	箱田小学校(笠間市)参加予定児童 = 31名

いずれの小学校もLPGAから派遣される女子プロ1名・2名を講師に、キッズゴルフプロジェクトのメンバー3~4名が同伴して実施される。小学校側の受入れ姿勢はマチマチで、教師全員に教え方を学ばせ、全校児童で練習するという学校や、来年、穴戸ヒルズで開催される大会を目指して3年生を中心に練習させるという学校、先生だけではムリなので地域の協力を得て社会スポーツとしての道を探るという学校もある。最も無理なく定着させる方法は野球やサッカーなどと同様に地域の協力を得た社会スポーツとして、スポーツ少年団のような運営方法であろう。

どの小学校でも子供達の反応は素晴らしく、90分~120分程度の講習中は目を輝かせて、集中して練習に励んでいる。一度の練習でかなりのフォームを身に付ける子供た

ちもいて講師の女子プロを喜ばせている。

・ 宍戸ヒルズ近隣小学校の講習会に茨城県ゴルフ協会が協力

11月5日の佐城小学校及び笠間小学校の講習会から、JG Aの要請に応じて茨城県ゴルフ協会が協力してくれるようになった。笠間市の小学校には笠間市ゴルフ協会のスタッフが、友部町の小学校の講習会には茨城県ゴルフ協会のスタッフが練習を手伝ってくれている。スナッグゴルフの講習会は準備や後片付けに手間がかかると同時に、多くの子供達を同時に教えるため女子プロやキッズゴルフプロジェクトのメンバーだけでは目の届かない部分が出てくる。地域のゴルフ協会のスタッフはゴルフに詳しいばかりでなく、小学校との関係が深かったり、先生と知り合いであったりして講習をスムーズに進める原動力になってくれる。更に、彼等は学校側が求める社会スポーツを中心になって推進してくれる要素もあり、特に、友部第2小学校の講習会に参加してくれた友部ゴルフガーデンの鈴木和彦支配人は水曜日(休業日)の練習場施設の提供を申し出てくれた。地域のゴルフ協会との連動はJGCとしても今後、貴重な活動になっていくものと思われる。

・ 静岡県森町の教育委員会との折衝を開始した

平成15年度の静岡国体が静岡県の森町で開催された事を機に、森町の5つの小学校にスナッグゴルフ・コーチングセットが寄贈されるが、この程、森町教育委員会側の受入れ体制が整ったので第1回目の会合を持った。森町側は森小学校、飯田小学校、宮園小学校、天方小学校、三倉小学校の5校がスナッグゴルフの受入れに同意したが、宮園小学校だけは最終結論がペンディングになっており、不調の場合は教育委員会が寄贈を受ける。キッズゴルフ・プロジェクトは各学校から受入れ計画の提出 定期的な報告 試合への参加などを求めた。導入講習会は先ず、先生や地域の指導者を対象に合同講習会を行い、そのあとで各学校別の講習会を実施する事にした。指導者講習会は1月下旬～2月上旬に贈呈式に時期を合わせて実施する予定。

・ 中央区教育委員会へ東京銀座ライオンズクラブがスナッグゴルフを寄贈

LPGAが従来から進めてきた東京都中央区の教育委員会への働きかけが、東京銀座ライオンズクラブのチャリティ活動の形で成果を得た。LPGAは中央区教育委員会に対して小学校における講習会やイベントへの体験コーナー実施など各種のデモンストレーションを実施して、スナッグゴルフの採用を働きかけてきたが、この程、やはりLPGAの働きかけで東京銀座ライオンズクラブが費用を負担して教育委員会にスナッグゴルフ・コーチングセットが贈呈された。教育委員会は講習会の会場となった中央区立明石小学校に用具の管理を委託したが、区内の小学校からの使用要請が多く、

奪い合いの状況になっているという。

尚、やはりLPGAが従来からプロモート活動を続けてきた浦安市教育委員会もスナッグゴルフ・コーチングセットの購入を決めた。

・第1回スナッグゴルフ関東小学生チーム選手権

アコーディア・ゴルフとスナッグゴルフジャパン事務局が主催し、日本ジュニアゴルフファー育成協議会と埼玉県ゴルフ協会が後援をした「第1回スナッグゴルフ関東小学生チーム選手権」が11月22日(土)に埼玉県のノーザンカントリークラブ錦ヶ原ゴルフ場特設コースで開催された。この大会の参加チームは小学校単位に限定せず、小学生であればどのような集まりでも良いとするユニークな大会で、練習場のジュニア教室のチームを先頭に9チームが参加した。試合形式は1チーム6人(内1人は)のチーム戦で予選ラウンド9ホール・決勝ラウンド9ホールのストロークプレー、関東各地から9チームが参加した。優勝した「チーム井上」は佐藤信人選手や米山 剛選手等のコーチとして有名な井上 透氏が、主宰するジュニア教室から選抜した選手と自らが監督を務める強力なチーム。強風下の河川敷コースでパー33のコースを殆どの選手が20台でラウンドしており、井上監督が「スナッグゴルフではこの辺が限界でしょう」というほどの強さを見せた。井上監督は「子供達は練習ばかりで試合はおろかゴルフ場でのラウンドも殆どできない状態です。たとえスナッグでも子供達に試合を経験させる事は大変貴重な体験でありがたい。また、日本にもハーフターン後の空きコースを開放してくれるゴルフ場がもっと増えるといいのですが」と語っていた。普段は通常のクラブ・ボールで練習しており、スナッグの経験は殆ど無いそうだが、一般のゴルフが上手い子供はスナッグゴルフも上手いということが証明された。2位には杉並区のハイランドセンターのジュニア教室、3位は慶応義塾幼稚舎のゴルフ部が入り、小学生スナッグゴルフ対抗戦・JGTOカップの覇者、立教小学校は4位に終わった。参加生徒が4年生だけであったハンデもあったが、スナッグゴルフの普及が広まると強いチームが登場してくる可能性が高まるということであろう。ユニークだったのは予選7位で友好試合に回った板9小「フラット・ナイン」チーム。板橋区立第9小学校では学校の週休2日制に対応して、地域の協力のもとに9つのスポーツ・文化種目を子供達に教える一種の文化・スポーツクラブを立ち上げている。スポーツにはサッカー、野球等があり、文化種目には大流行の囲碁なども含まれるようだ。毎週土曜日と日曜日に1種目1時間の練習があり、子供達は1日2種目まで参加できる。今回、監督として子供達を引率してきたのはプロゴルファーの槇山充宏氏。地域の商店会会長に相談されてスナッグゴルフを紹介したところ、9種目の中に採用されたようだ。こうした自然な形で普及していくケースが誕生している事は注目に値する。

・ **スポーツクラブ21「おおしょう」より協力要請**

兵庫県尼崎市のゴルフ練習場である「尼崎テクノランド」の支配人より12月6日にスポーツクラブ21「おおしょう」の活動の一環として、大庄小学校で開催されるスナッグゴルフ体験イベントへの協力依頼があった。JGCでは同イベントを後援する事とし、できる限りの協力を約束した。

・ **ひたちなか市文化・スポーツ振興公社から協力要請**

茨城県ひたちなか市の総合運動公園など、同市が持つ全てのスポーツ施設を運営し、スポーツ・文化の振興を業務とする財団法人である（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社から平成16年度に実施する「親子スポーツ教室(仮称)」に対する講師派遣や用具の貸出などに関する協力要請があった。

- 以上 -

内容詳細に付きお問合せの際は下記宛ご連絡ください。

JGC・日本ジュニアゴルファー育成協議会

住 所：東京都中央区京橋1-12-5 京橋YSビル

日本ゴルフ協会内

T e l : 0 3 - 3 5 6 6 - 0 0 0 3

F a x : 0 3 - 3 5 6 6 - 0 1 0 1